

# 1. 審議会の意見結果（前文）

	代表委員が取りまとめた市民憲章案	代表委員による説明内容 (表現や文章に込められた思い)	審議会当日の意見
	伊豆半島の北部に位置し、雄大な富士山と狩野川の清流に抱かれた伊豆の国市。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• どのまちの市民憲章なのか分かるように、市民からの意見で多く挙げた「富士山」「狩野川」を入れつつ、文章に落とし込んだ。</li> </ul>	
前文	わたしたちはこのまちで、韮山反射炉をはじめとする世界に誇る歴史遺産や、三つの町で育まれた豊かな文化を今に伝えてきました。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 過去の先人たちに経緯を示しつつ、これまでのまちの成り立ちを説明。</li> <li>• 市民の声として「韮山反射炉」を反映。</li> <li>• 3町合併の経緯を反映。合併の経緯だけでなく、3つのエリアで育まれた歴史や文化を大切にしながら、これからも1つの市としてやっていきたらよいという思いを込めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「三つの町について」 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 「三つの町」について、これから20年、50年先にも残る言葉だとすると、いつまでも旧町の意識が残ってしまうのではないか。</li> <li>→ 合併の経緯も必要かもしれないが、これから伊豆の国市としてどのようなまちを目指していきたいかという観点から言えば、「三つの町は」不要ではないか。</li> <li>→ 市民憲章策定の経緯として、旧町概念から脱却し、伊豆の国市としての一体感を目指すものだったと思うので、「三つの町」は不要ではないか。</li> <li>→ 今の子どもたちは生まれたときから旧町の認識は薄いと思うので、「三つの町」を残すのであれば、伊豆の国市の成り立ちや、合併前はもともと3町であったことを意識づけるという前向きな側面はあると思う。</li> <li>→ 「三つの町」については、複数の場所から文化が育っている印象づけるのであれば「地域で」という表現にしてはどうか。後半の本文でも「地域みんなで育みます」「地域の力」など「地域」がキーワードになっているので。</li> </ul> </li> </ul>
	わたしたち伊豆の国市民は、多様性を尊重し合いながら、誰もが幸せに暮らせるまちを自らの手でつくるため、ここに市民憲章を定めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• これからの時代に必須の考え方である「多様性」を入れつつ、誰一人取り残さない「SDGs」の視点も含めて、文章に落とし込んだ。</li> <li>• 「誰もが幸せに暮らせる」という言葉がウェルビーイングの視点になるが、「自らの手でつくる」という表現には、行政任せでも人任せでもない、住民自治の視点が込められている。</li> </ul>	

## 2. 審議会での意見結果（本文）

	代表委員が取りまとめた市民憲草案	代表委員による説明内容 (表現や文章に込められた思い)	審議会当日の意見
本文	わたしたちは、 一、誰もが安心して暮らせるよう、人とのあたたかいつながりを築きます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民ワークショップや意見聴取の結果で「孤独ではないまち」を望む声が多く、また、心の健康、身体の健康、社会との良好なつながりの3つの要素がウェルビーイングの実現には欠かせないことから「人とのつながり」と表現。</li> </ul>	
	一、先人たちから引き継いだ自然や歴史、文化を守り、未来に伝えます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>守るだけでなく次の世代に伝えていこうという思いや、有形・無形の文化財、3つの町で育まれた文化、自然や環境も含めて、守りながら伝えていくという思いが込められている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「先人たち」の「たち」は不要ではないか。</li> <li>「引き継いだ」ではなく「受け継いだ」の方がよいのではないか。 → 「引き継ぐ」だと事務的な印象を受けるので、「受け継ぐ」の方が気持ちがこもっている印象を受ける。</li> <li>「守る」だけでなく、より積極的な姿勢の言葉があってもよいと思う。 → 「守る」という言葉には「歴史」がかかっているので、「守る」以外の言葉を使うと、逆に「歴史」の表現が使えなくなってしまうのではないか。</li> </ul>
	一、未来を担う子どもたちを、地域みんなで育みます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>消滅しない持続可能なまちを目指す上では、子どもを大切にすることははっきり宣言することが必要ということで文章に落とし込んだ。</li> </ul>	
	一、世界へ続く道をひらくため、地域の力を活かします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界を見据えたグローバルの視点、また、産業振興の視点から、農業、工業、商業など地域の方々が持っている力を「地域の力」と表現した上で、皆だ活かしていこうという思いが込められている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意味が難しいと感じた。 → 代表委員の議論では、広がりを持たせる意味でも、産業だけでなく地域活動や教育などの意味合いも持たせるということで「地域の力」という表現を使った。 → 「地域の力を活かして、世界をひらく」のような逆の表現もあるのでは。 → まちや人を全面に押し出すという意味では、文脈としては先に「地域」があってもよいかもしれない。</li> </ul>
	一、このまちに関わるすべての人が、大切にされるまちをつくりまします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>弱い立場の方や観光で訪れる方、伊豆の国市出身だが現在は別の場所に住んでいる方なども含めた全ての方が、年齢、性別、出自、障がいの有無、LGBTQなどに関わらず、多様な方々の多様な考え方を大切にしようという思いが込められている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「このまちに関わるすべての人」が説明調のように感じる。削って「人」だけでもよいのではないか。 → 代表委員の議論でも最後まで難航した部分であるが、「人」だけだと、市民憲草なので市民だけだと誤読のおそれがある。そうではなく、観光で訪れる人や移住者、関係人口などすべての人が大切にされるまちとしたいという思いを込めている。 → 「関わる」という言葉は、かえって限定してしまう側面もあると思うので、「すべての人」という表現が収まりがよいと思う。</li> </ul>

### 3. 伊豆の国市民憲章案（第5回審議会終了後）

伊豆半島の北部に位置し、雄大な富士山と狩野川の清流に抱かれた伊豆の国市。

わたしたちはこのまちで、韮山反射炉をはじめとする世界に誇る歴史遺産や、~~三つの町~~地域で育まれた豊かな文化を今に伝えてきました。

わたしたち伊豆の国市民は、多様性を尊重し合いながら、誰もが幸せに暮らせるまちを自らの手でつくるため、ここに市民憲章を定めます。

わたしたちは、

- 一、誰もが安心して暮らせるよう、人とのあたたかいつながりを築きます。
- 一、先人~~たち~~から~~引き継いだ受け継いだ~~自然や歴史、文化を守り、未来に伝えます。
- 一、未来を担う子どもたちを、地域みんなで育みます。
- 一、~~世界へ続く道をひらくため、地域の方を活かします。~~地域の方を活かし、世界へ続く道をひらきます。
- 一、~~このまちに関わる~~すべての人が、大切にされるまちをつくります。